

〔曲名〕 Nuit de Noel

降誕祭の夜

〔曲種〕 pastorale

〔作曲者〕 Giuseppe Manente

ジュゼッペ・マネンテ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者の履歴に就いては本曲集第三集に記したが其後に入手した資料により次の如く訂正する。

初め音楽家の父から後にサン・ピエトロドマイエラの音楽学校に学んだ。

トランペットをD.Gatti教授に、和声、対位法、作曲法を最初G.Gnarro教授に後に上述の音楽学校でC.De Nardisに学んだ。

その後マドリッドの音楽学校のM.Serranoに又ローマのS.Cecilia音楽学校のC.De Sanctis教授にも学んだ。

1889年コンクールに受賞して歩兵第60連隊吹奏楽団の指揮者となった。

1905年トリノの博覧会には800人の演奏者による大演奏会を指揮し、

又Lucca、Pescia、Bagni di Montecatini等諸都市の沢山の吹奏楽団の指揮に当った。

本曲降誕祭の夜は作者が歩兵第三連隊附楽長時代の作で1903年から1908年までの間に作曲されたパストラレ。

25の吹奏楽器の為に書かれている。

マンドリンオーケストラでは同題でアマディが小組曲を書いており降誕祭の名を冠した曲は頗る多い。

初期から中期にかけての出版譜には作品番号が附されていないが「メリアの平原にて」よりは前に書かれているので作品100番前後のものであろう。

かの華燭の祭典を書いた頃のものとしては非常にすっきりとしたもので清澄を聖夜を偲ばせるものとしてはむしろマンドリン楽が適わしく

作者自身によりマンドリン楽に書かれなかったことが憾まれるほどである。

小人数によっても外廓が掴めないこともないが出来れば多くのメンバーによる大合奏にしたい。

1970年7月20日発行

イタリアマンドリン百曲選第7集より